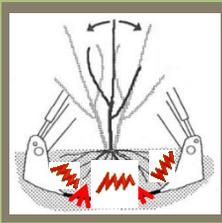


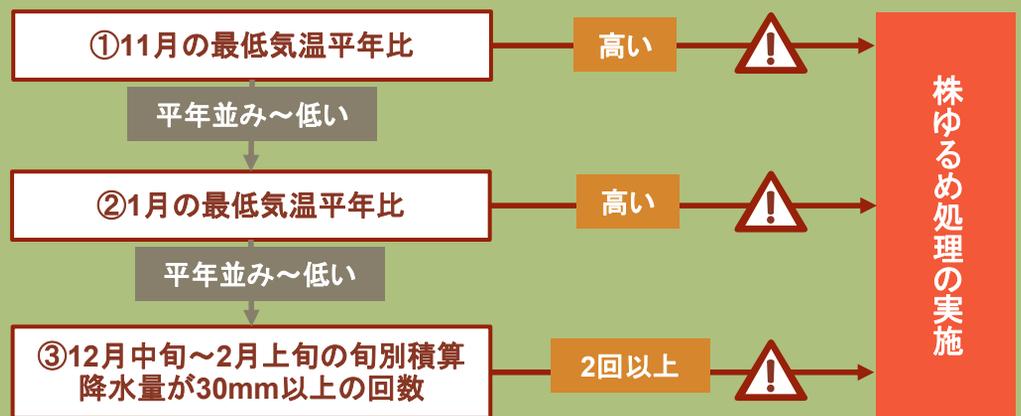
◆凍害対策技術(定植後)一覧

処理	時期	実施方法				
株ゆるめ処理 予防的に毎年実施 p. 14	11月上旬～下旬	 <p>2～4方向から株を抱えるようにアタッチメントを挿入し、株全体を10cm程度持ち上げる</p> <p>軽い断根、土壌孔隙で吸水抑制し、耐凍性向上</p> <p>樹齢、園地の条件に合わせて方法を選択</p> <table border="1"> <tr> <th>広い場所の場合</th> <th>狭い場所の場合</th> </tr> <tr> <td> <p>2～3年生樹</p>  <p>フォーク型バケットによる機械処理</p> <p>樹高の高い樹</p> </td> <td> <p>2～3年生樹</p>  <p>反転鍬、スコップによる人力処理</p> </td> </tr> </table>	広い場所の場合	狭い場所の場合	<p>2～3年生樹</p>  <p>フォーク型バケットによる機械処理</p> <p>樹高の高い樹</p>	<p>2～3年生樹</p>  <p>反転鍬、スコップによる人力処理</p>
		広い場所の場合	狭い場所の場合			
<p>2～3年生樹</p>  <p>フォーク型バケットによる機械処理</p> <p>樹高の高い樹</p>	<p>2～3年生樹</p>  <p>反転鍬、スコップによる人力処理</p>					
<p>表面が黒色の透湿性マルチで樹の周り(約2m四方)を被覆して土壌水分の上昇を抑える。</p> <p>土壌乾燥で吸水抑制し、耐凍性向上</p>						
マルチ被覆 p. 18	10月～翌年3月	 <p>高畝にマルチ 高盛にマルチ</p>				
全層破碎処理 p. 16	収穫後土壌の乾燥時	 <p>振動式全層破碎機で、樹列間の土壌を破碎し物理性を改良。</p> <p>排水性改善で、耐凍性向上</p>				

危険度の高いほ場と判定された方

危険度の低いほ場と判定された方

凍害発生危険度の低い園地でも、以下のフローを参照して毎年対策を検討しましょう。



気象条件をみて対応

株ゆるめ処理

p. 11

実施時期：11月～2月中旬